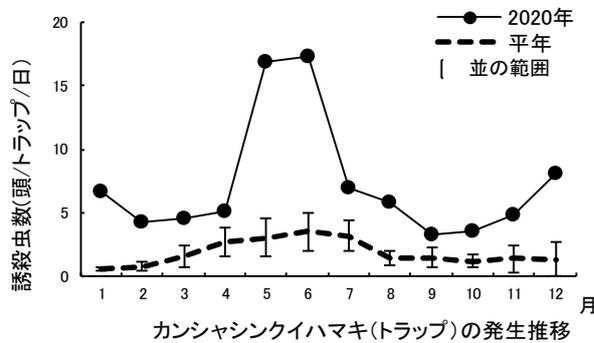
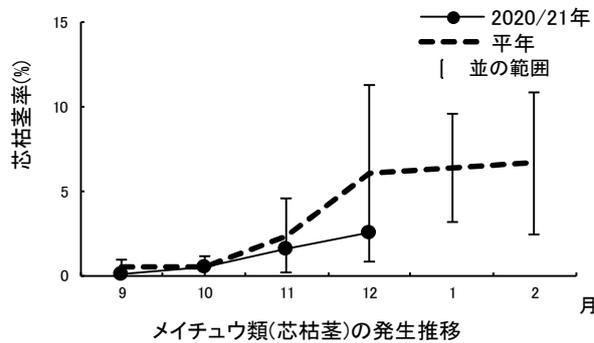


作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ)		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		芯枯茎率の平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



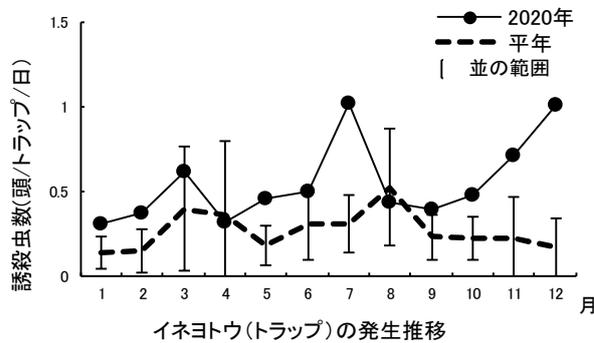
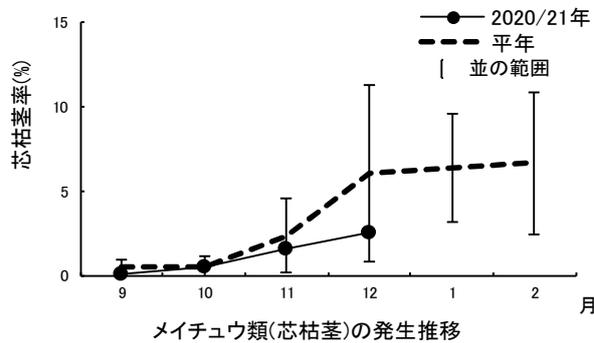
- ・沖縄本島の茎内で発見したメイチュウ類の93%(38/41頭)がカンシャシンクイハマキであった。
- ・病害虫防除員の報告(メイチュウ類)：多発生(久米島)

防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	② メイチュウ類 (イネヨトウ)		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		芯枯茎率の平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



- ・ 沖縄本島の茎内で発見したメイチュウ類の7.3% (3/41頭) イネヨトウであった。
- ・ 病害虫防除員の報告 (メイチュウ類) : 多発生 (久米島)

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

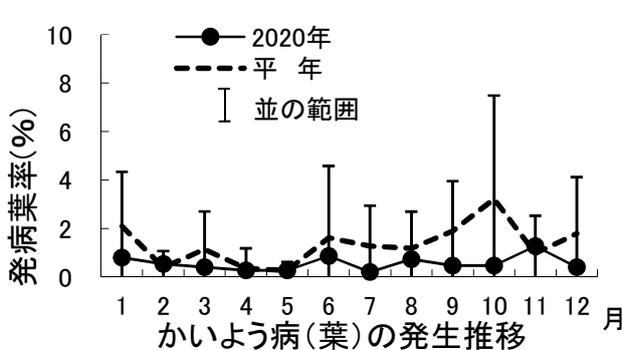
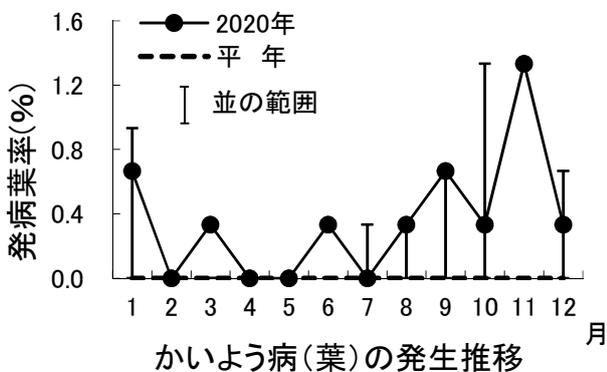
作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
調査結果	12 月の発生量（平年比）	並	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

調査結果

（発病葉率）

〈中央値〉

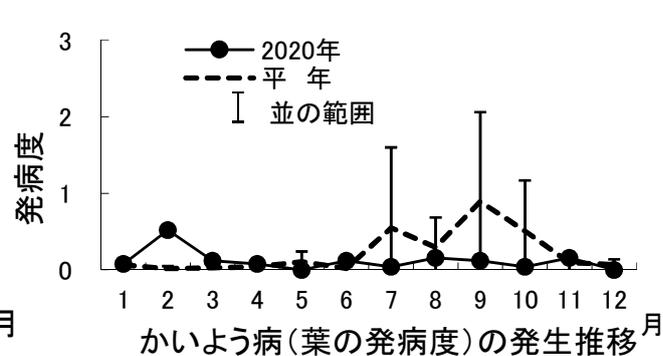
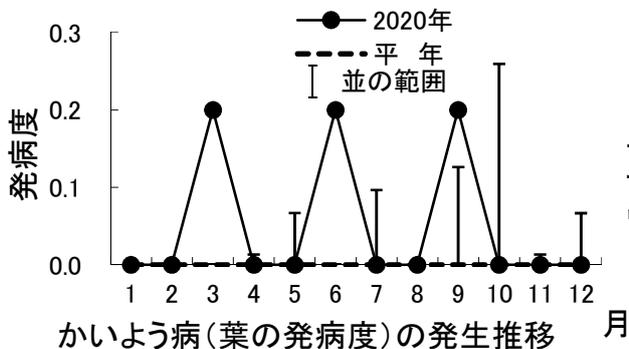
〈平均値〉



（葉の発病度）

〈中央値〉

〈平均値〉



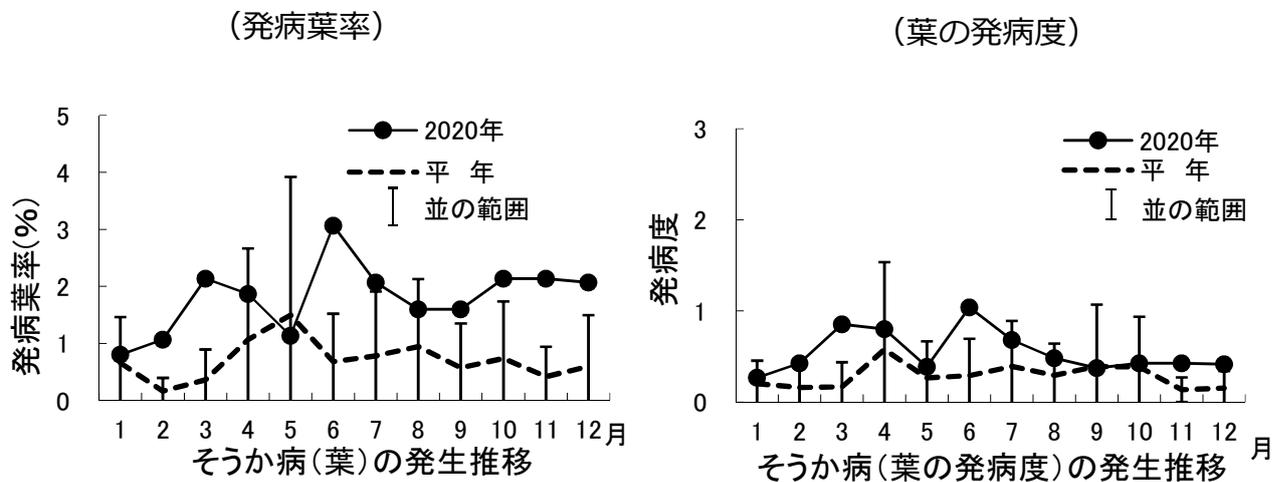
・ 発生ほ場率：60%（平年値：42.9%）

防除のポイント

- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	② そうか病		
調査結果	12 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

調査結果



- ・ 発生ほ場率：80%（平年値：35.7%）

防除のポイント

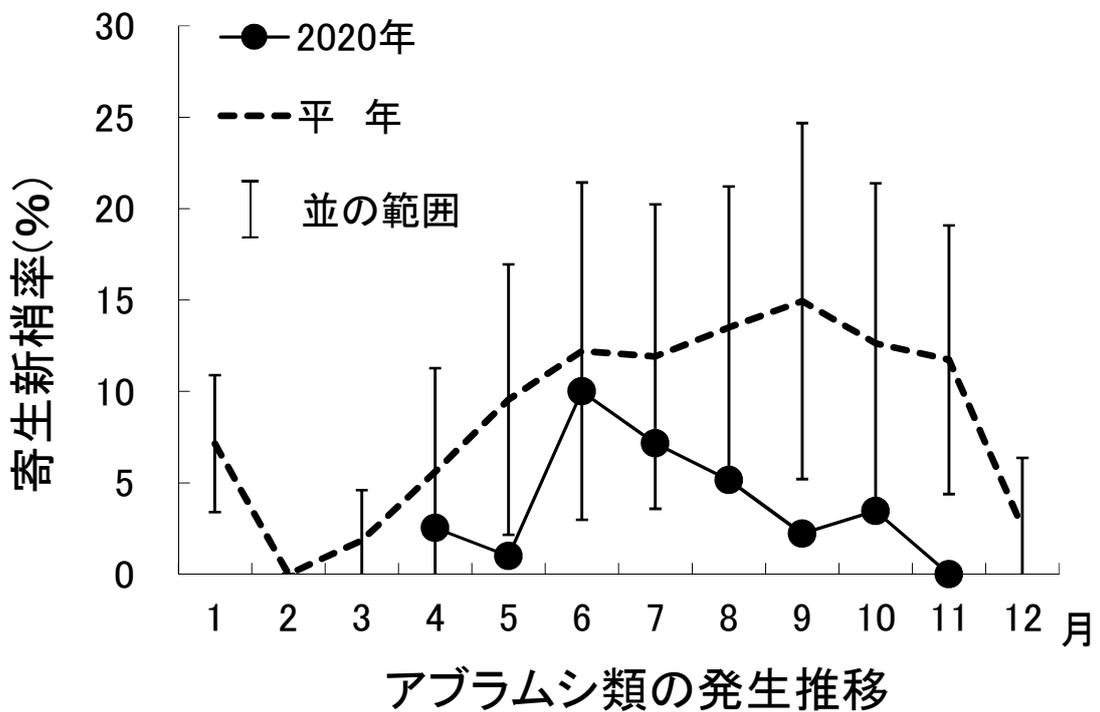
- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

被害果→



作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	12 月の発生量（平年比）	—	
予報	12 月からの増減傾向	—	
	1 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果



- ・ 新梢数が基準に満たなかったため12月の調査データなし

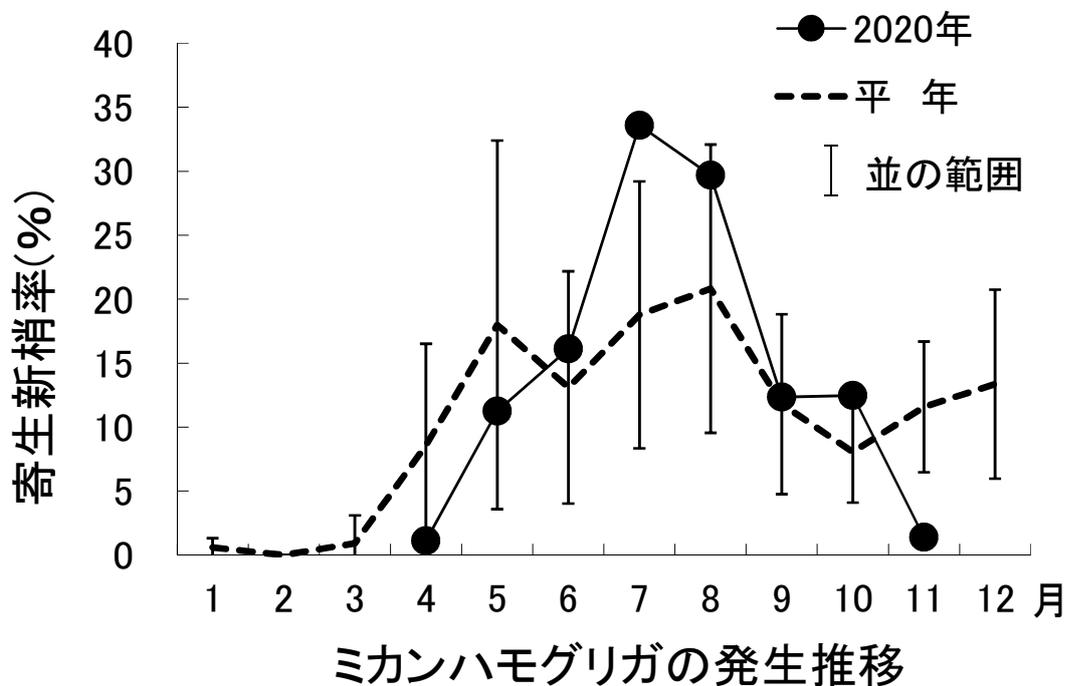
防除のポイント

- ・ テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・ 新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。



作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	ミカンハモグリガ		
調査結果	12 月の発生量（平年比）	—	
予報	12 月からの増減傾向	—	
		1 月の発生量（平年比）	—
予報の根拠			

調査結果



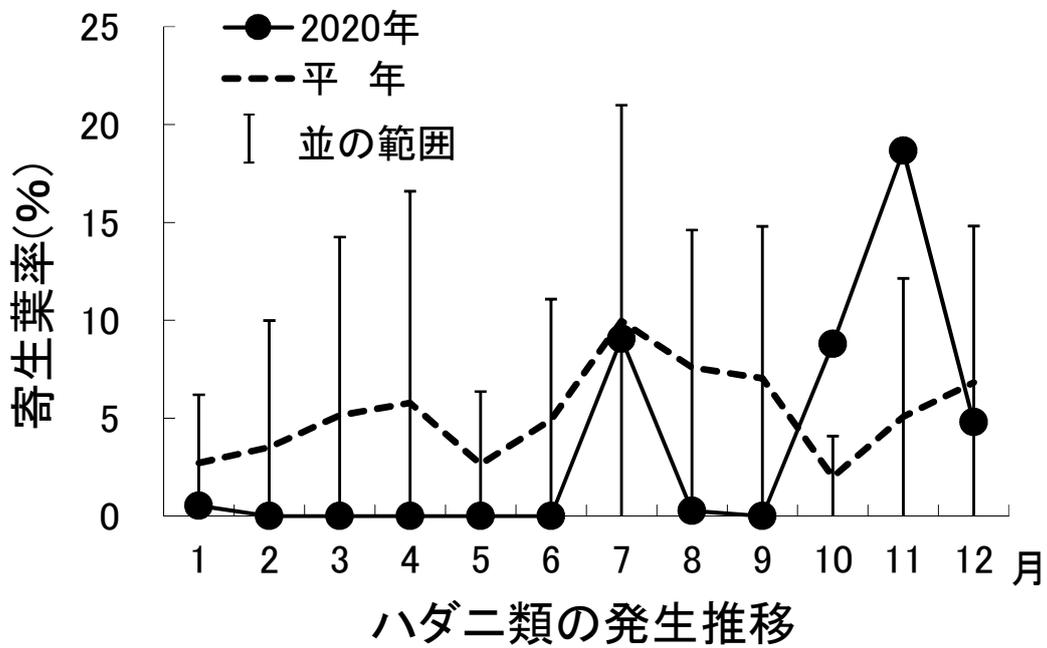
- ・ 新梢数が基準に満たなかったため12月の調査データなし

防除のポイント

- ・ 被害葉にかいよう病が発生しやすいため、除去に努める。

作物	かんきつ（温州みかん）		地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類			
調査結果	12 月の発生量（平年比）	並		
予報	12 月からの増減傾向	↘		
	1 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）		

調査結果



・ 発生ほ場率：60%（平年値：39%）

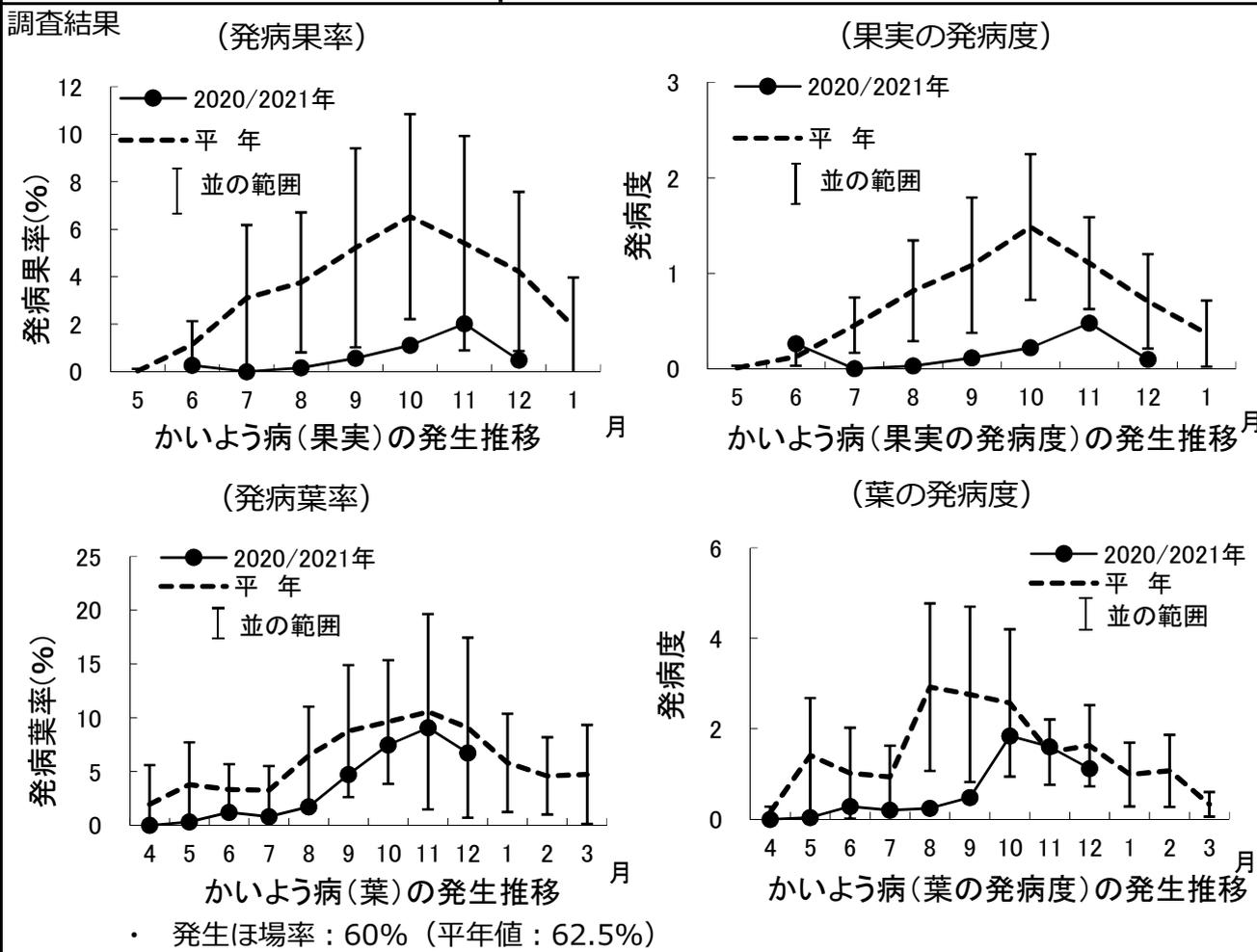
防除のポイント

・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報	12 月からの増減傾向	↘	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	



防除のポイント

- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・ 罹病葉・枝は次期作の伝染源になるので除去する。

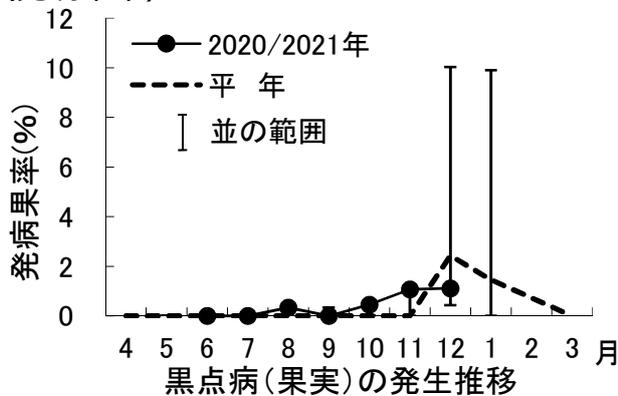
被害葉→



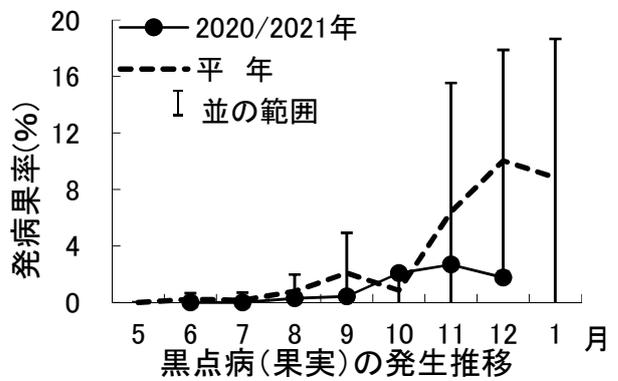
作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島	
病害虫名	② 黒点病			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)			並
予報	12 月からの増減傾向			↓
		1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

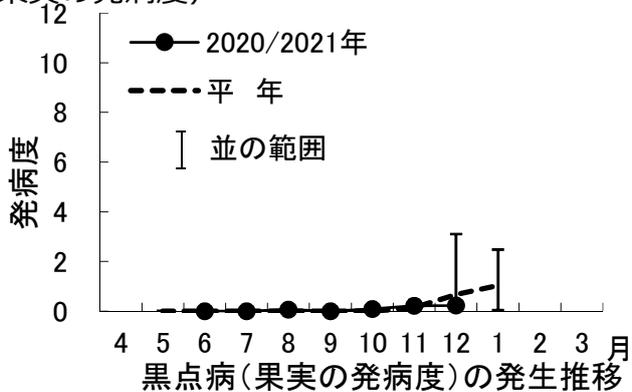
(発病果率) <中央値>



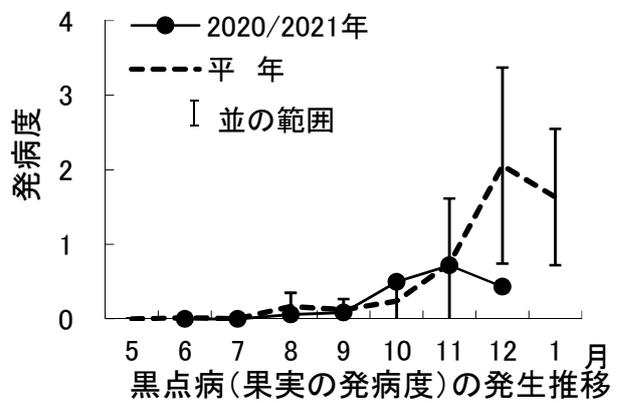
(平均値)



(果実の発病度) <中央値>



(平均値)



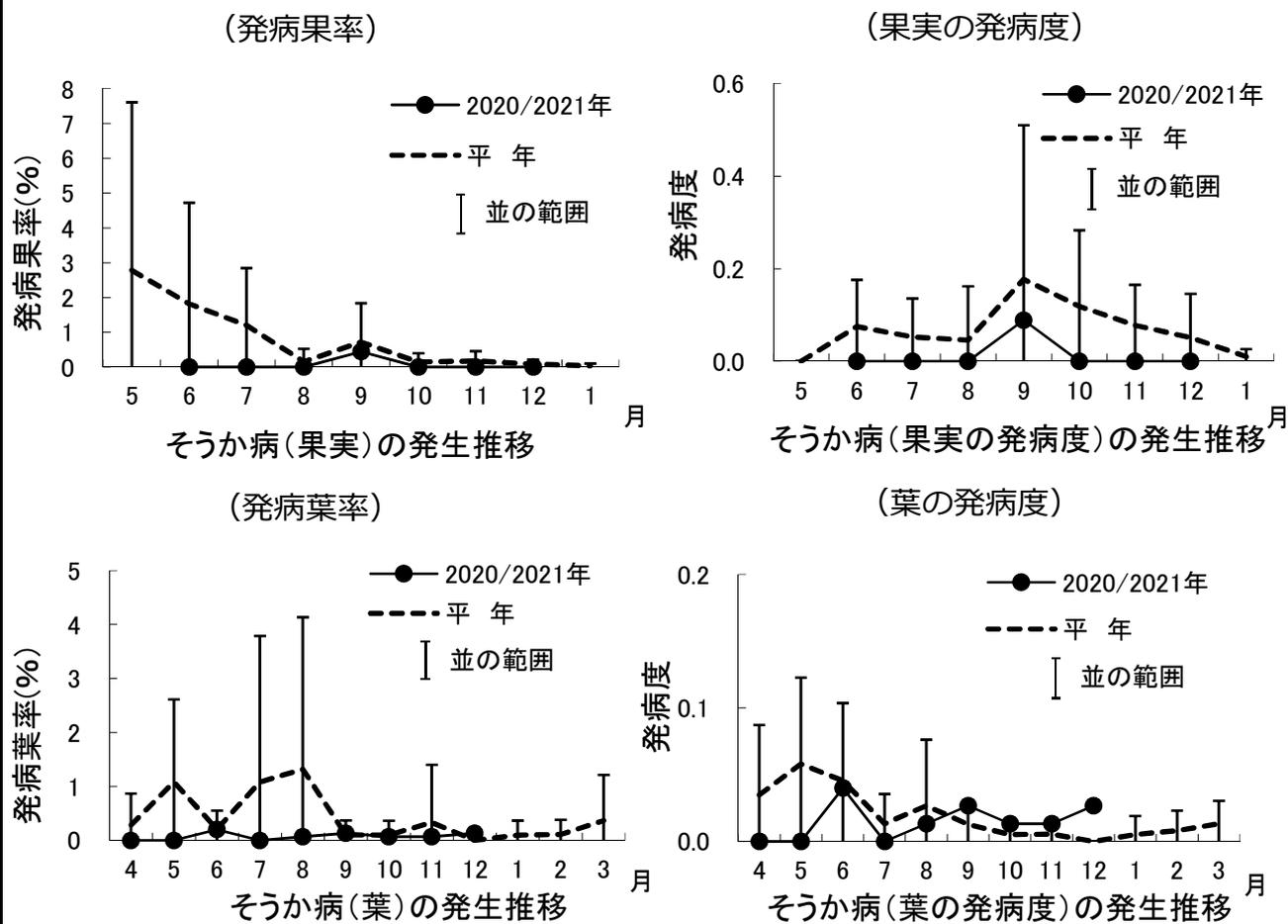
・ 発生ほ場率：60% (平年値：75%)

防除のポイント

- ・ 周辺の防風樹も含め、枯れ枝は除去する。
- ・ ほ場内の通風、採光を良くするために、間伐、せん定等の管理を徹底する。

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	そうか病		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	12 月からの増減傾向	→	
		1 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



防除のポイント

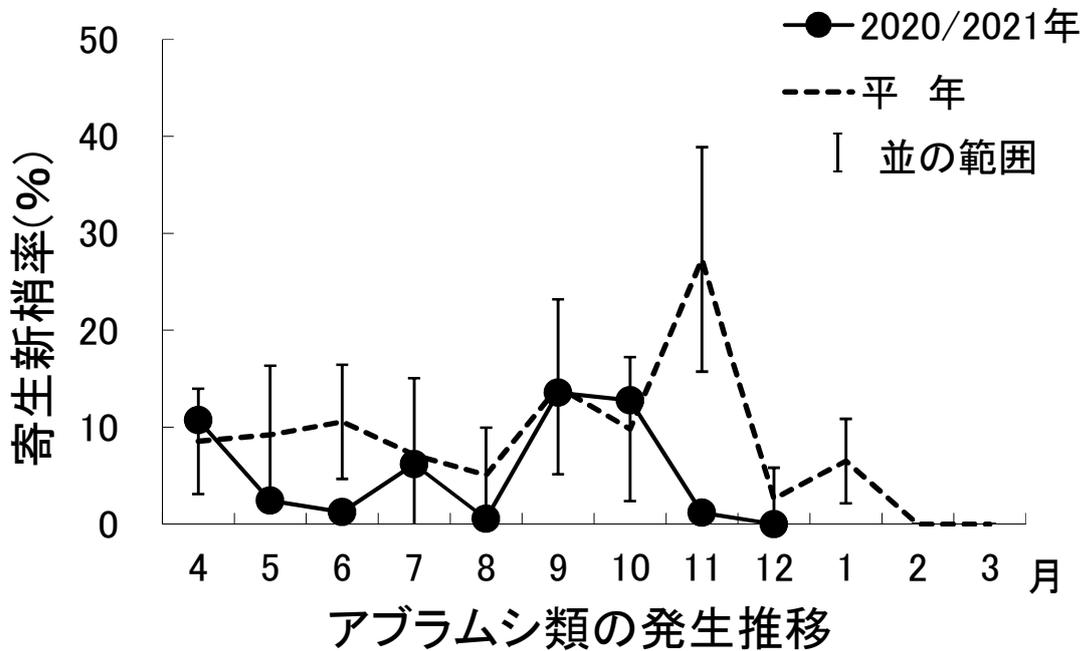
- 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

被害葉→



作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	12 月の発生量（平年比）	(発生なし)並	
予報	12 月からの増減傾向	↗	
	1 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果



・ 発生ほ場率：0%（平年値：18.2%）

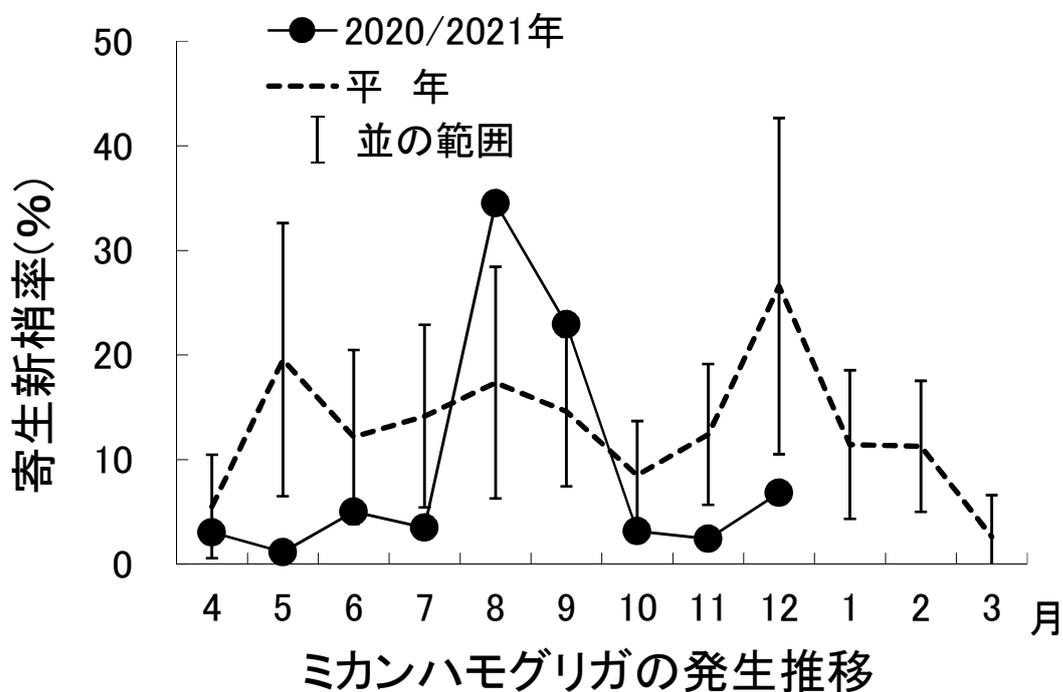
防除のポイント

- ・ テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・ 新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。



作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ミカンハモグリガ		
調査結果	12 月の発生量（平年比）	やや少	
予報	12 月からの増減傾向	↓	
	1 月の発生量（平年比）	やや少	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果



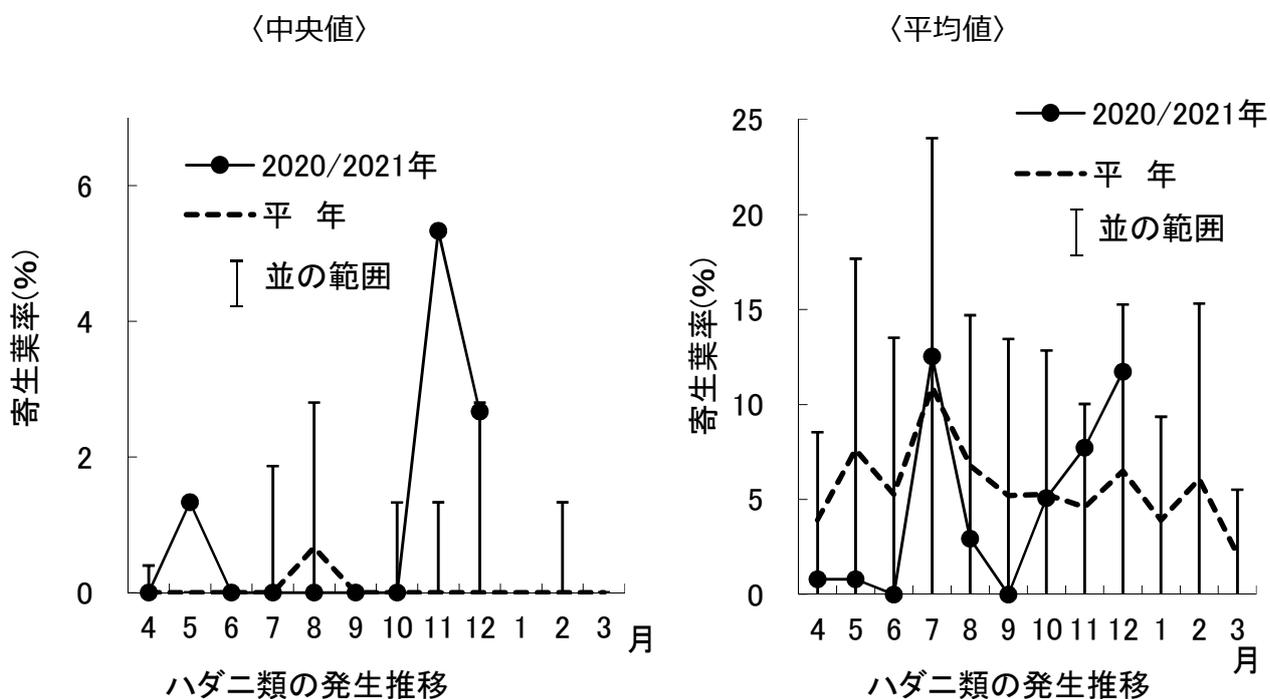
・ 発生ほ場率：25%（平年値：70.6%）

防除のポイント

- ・ 被害葉にかいよう病が発生しやすく、次期作の伝染源になるので除去に努める。
- ・ 被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ ハダニ類		
調査結果	12 月の発生量（平年比）	並	
予報	12 月からの増減傾向	↘	
	1 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果



・ 発生ほ場率：60%（平年値：33.3%）

防除のポイント

・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



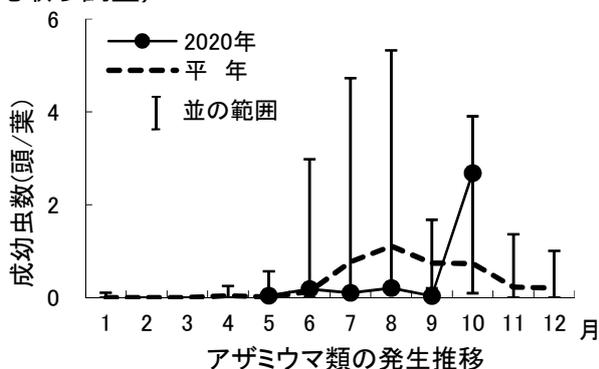
ハダニの寄生による葉のかすれ症状

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	—	
予報	12 月からの増減傾向	—	
	1 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

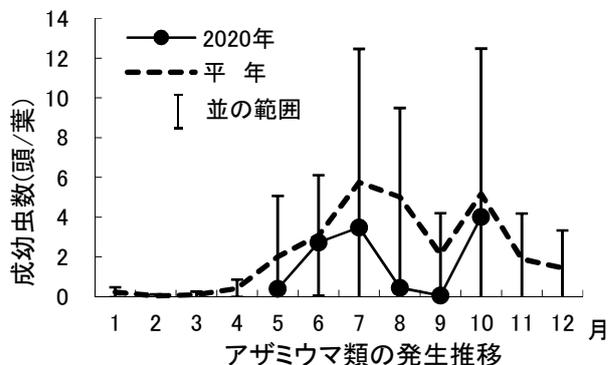
調査結果

(見取り調査)

〈中央値〉

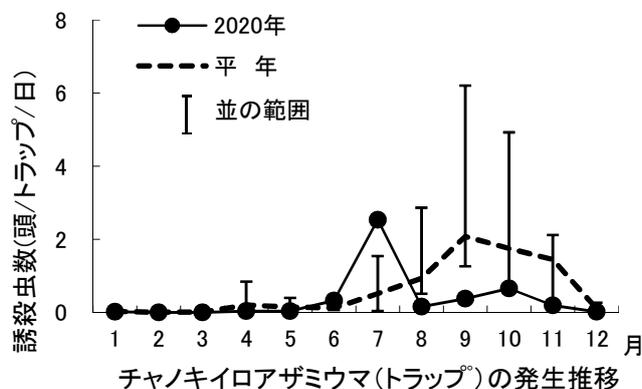


〈平均値〉

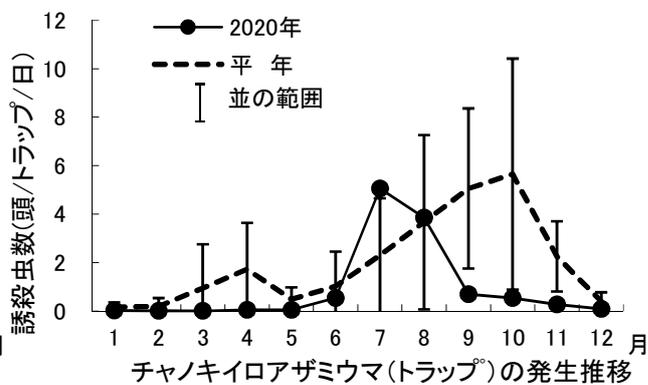


(トラップ調査)

〈中央値〉



〈平均値〉



・ 新梢数が基準に満たなかったため12月の見取り調査データなし

防除のポイント

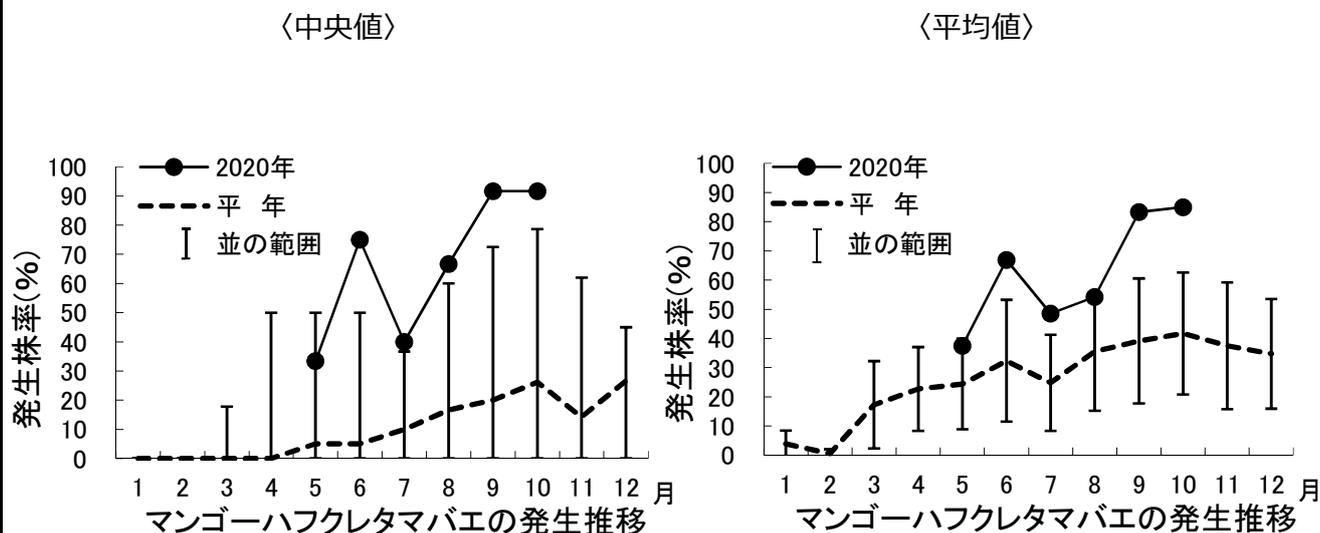
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 出蕾・開花期における本種の増加を抑制するため、ビニール被覆前後に予防散布を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 不要な新梢は、施設外に除去する。



ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	マンゴーハフクレタマバエ		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	—	
予報	12 月からの増減傾向	—	
	1 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果



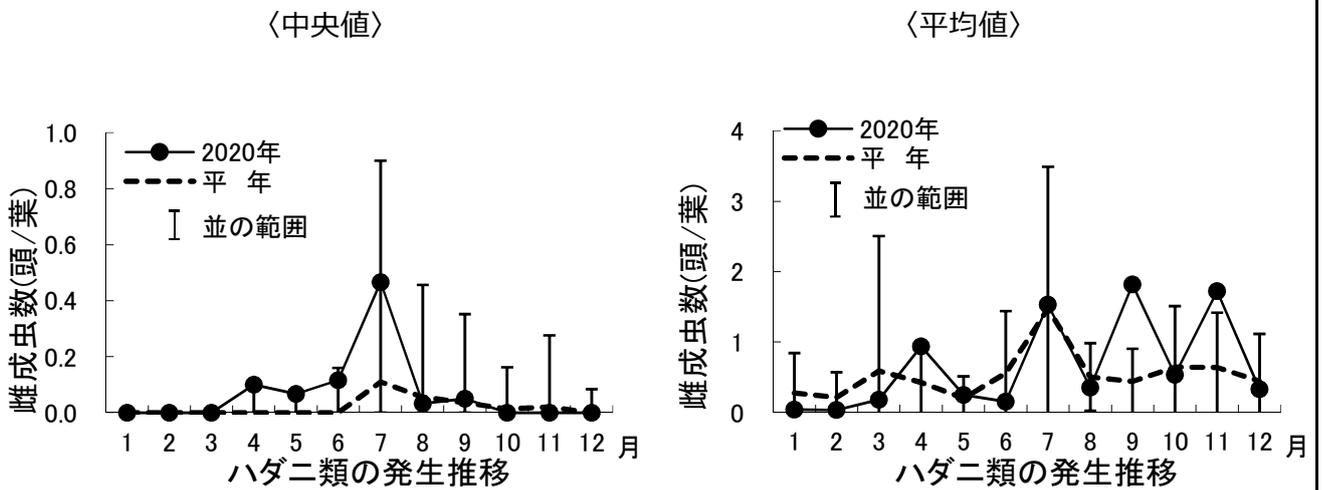
- ・ 新梢数が基準に満たなかったため12月の見取り調査データなし

防除のポイント

- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報	12 月からの増減傾向	→	
		1 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



- ・ 発生種 : シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- ・ 発生施設率 : 25% (平年値 : 42.9%)

防除のポイント

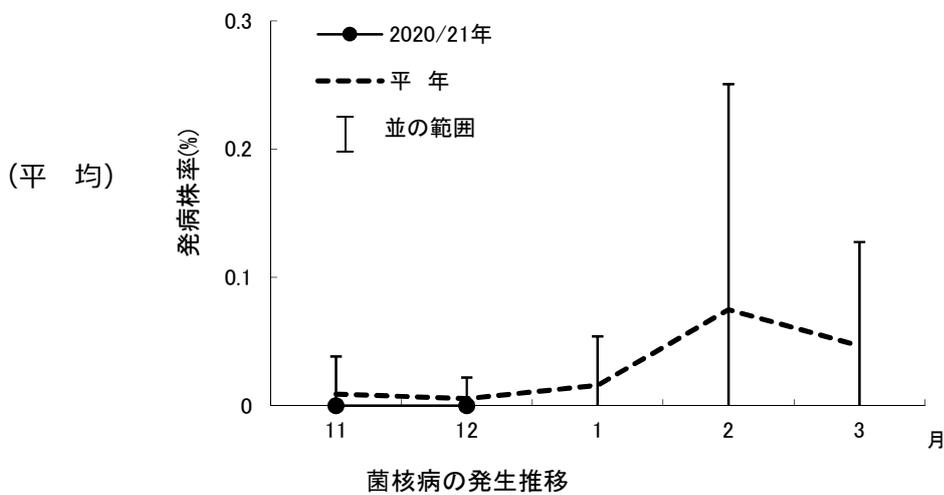
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症

作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	菌核病		
予報	12 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	12 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	1 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果



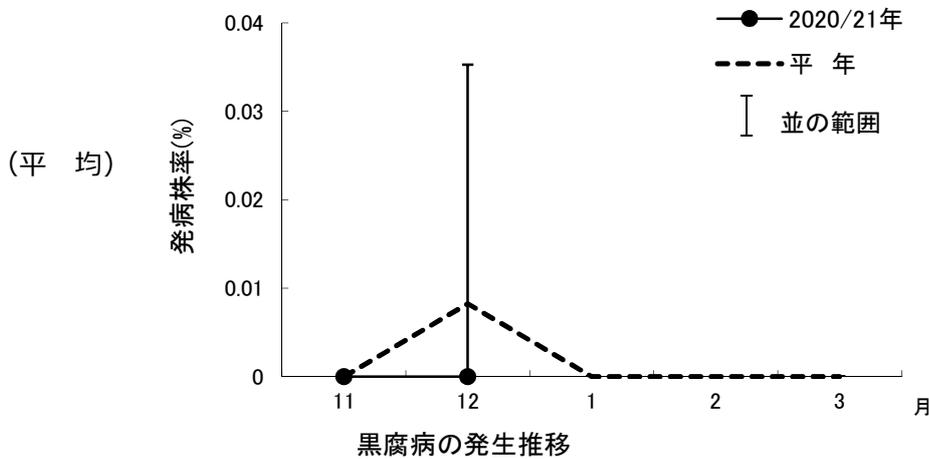
・発生ほ場率：0.0% (平均値：5.0%)

防除のポイント

- ・密植栽培を避けて、通風をよくする。
- ・被害株は菌核を形成しないうちに、早めに抜き取る。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・多発生したほ場は、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。

作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	黒腐病		
予報	12 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
	12 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	1 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果



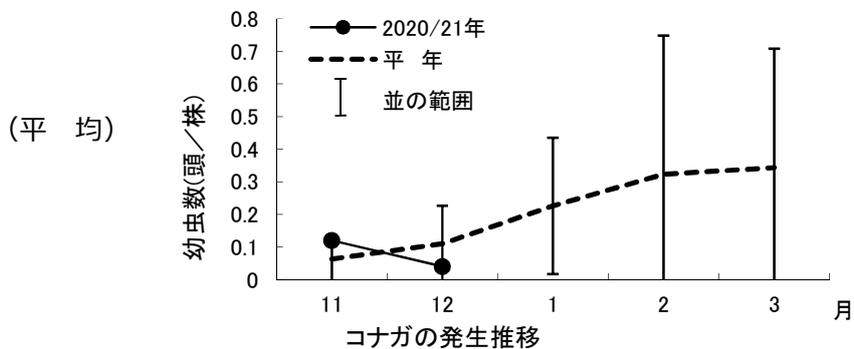
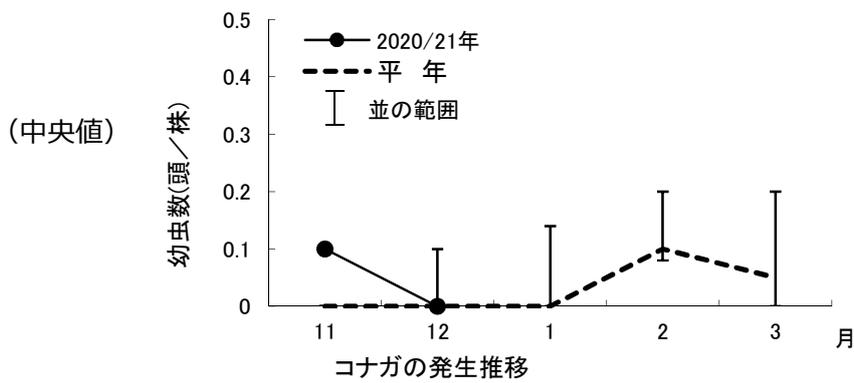
・発生ほ場率：0.0% (平均値：2.5%)

防除のポイント

- ・圃場の排水を良くするとともに、密植栽培を避けて通風をよくする。
- ・害虫の食害痕は病原菌の侵入口となるので、害虫の防除も徹底する。

作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	① コナガ		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	12 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	1 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



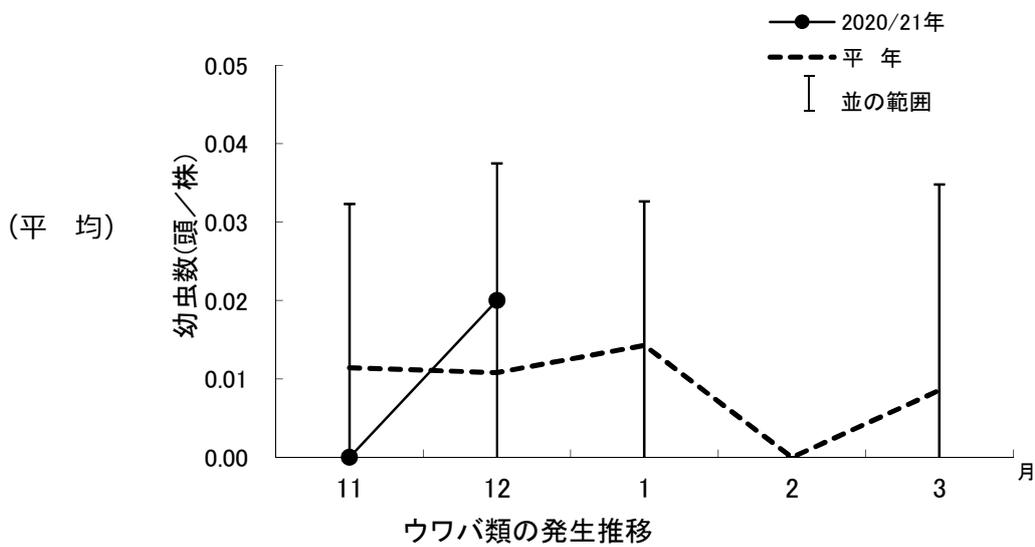
・発生ほ場率：40.0% (平均値：32.5%)

防除のポイント

- ・ほ場周辺のアブラナ科雑草の除去および収穫後の残さ処理を徹底し、ほ場管理に努める。
- ・多発すると防除が困難になるので、低密度時に薬剤防除を行う。

作物	キャベツ	地域	沖縄群島
病害虫名	ウワバ類		
予報	12 月の発生量 (平年比)	並	
	12 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	1 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果



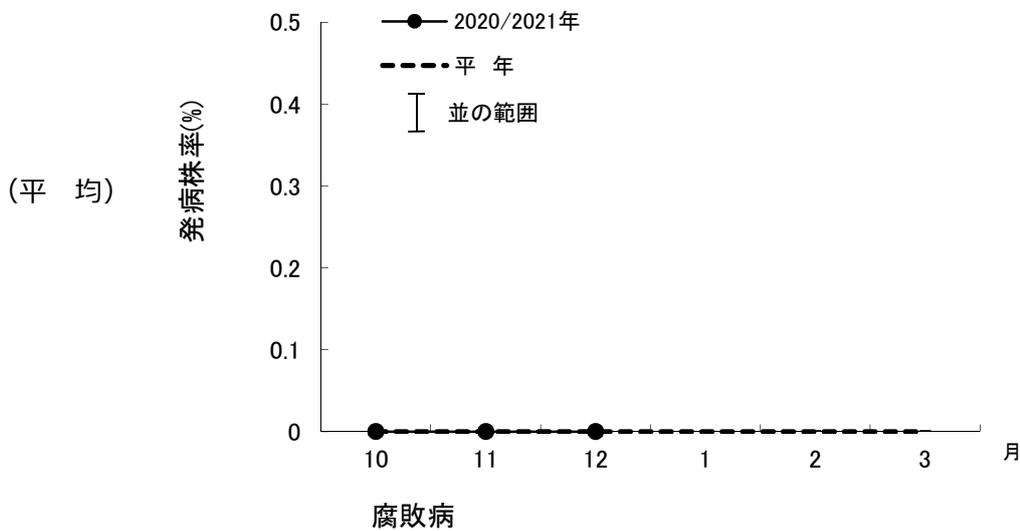
・発生ほ場率：20.0% (平均値：5.4%)

防除のポイント

・ほ場周辺の雑草の除去および収穫後の残さ処理を徹底し、ほ場管理に努める。

作物	レタス		地域	沖縄群島
病害虫名	腐敗病			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

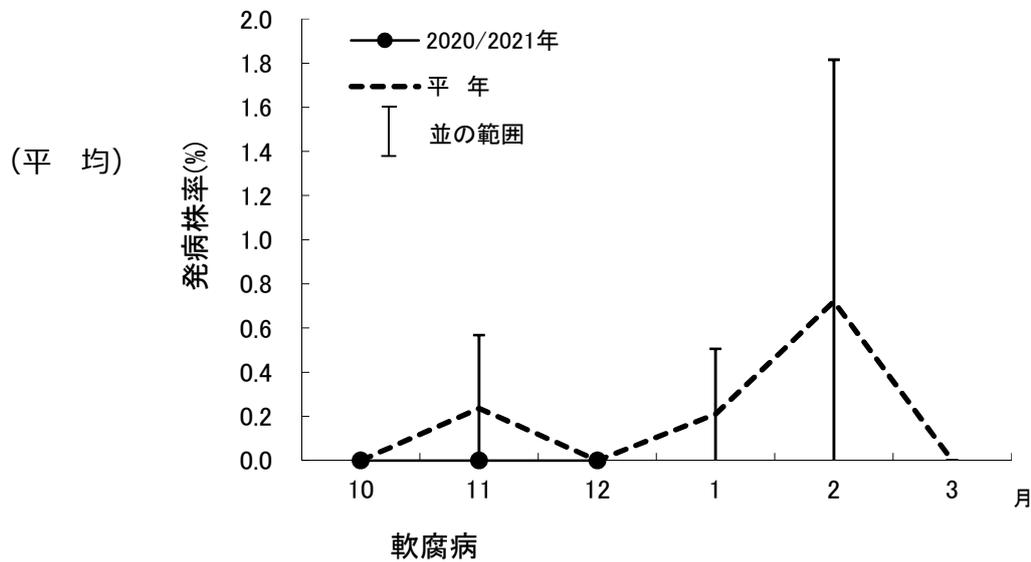


防除のポイント

- ・ほ場の排水を良くするとともに、密植栽培を避けて通風をよくする。
- ・発病株は放置せずに抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・多発生したほ場は、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。

作物	レタス		地域	沖縄群島
病害虫名	軟腐病			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並		
予報	12 月からの増減傾向	↗		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

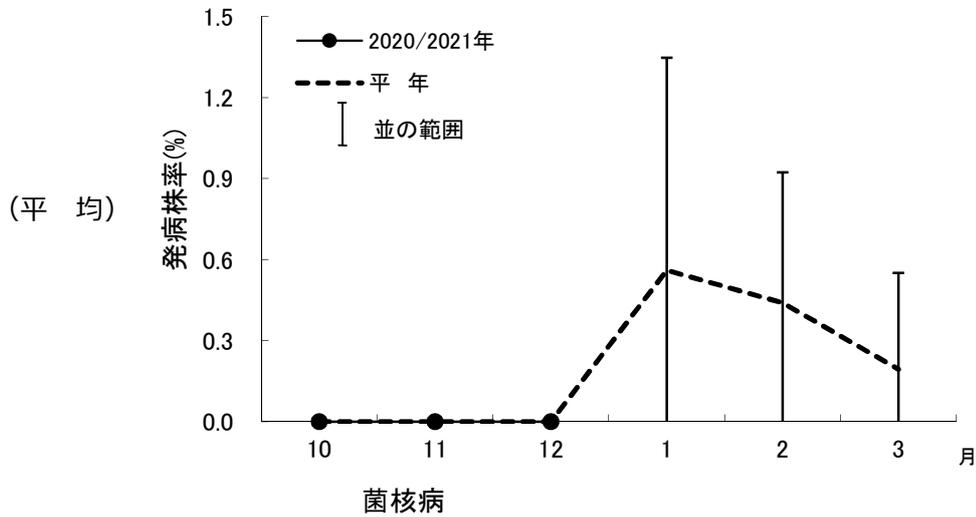


防除のポイント

- ・ほ場の排水を良くするとともに、密植栽培を避けて通風をよくする。
- ・菌の侵入源となる傷口の発生を助長するヨトウ類の幼虫やナメクジなどの駆除に努める
- ・薬剤散布は予防を主として、株元を中心に、丁寧に行う。
- ・発病株は放置せずに抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・多発生したほ場は、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。

作物	レタス		地域	沖縄群島
病害虫名	菌核病			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並		
予報	12 月からの増減傾向	↗		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

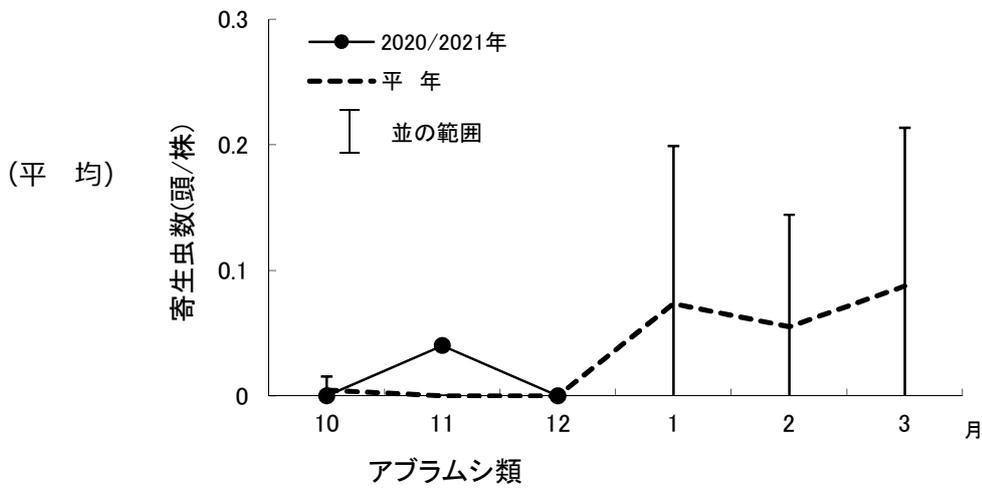


防除のポイント

- ・密植栽培を避けて、通風をよくする。
- ・被害株は菌核を形成しないうちに、早めに抜き取る。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・多発生したほ場は、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。

作物	レタス	地域	沖縄群島
病害虫名	① アブラムシ類		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	12 月からの増減傾向	↗	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果



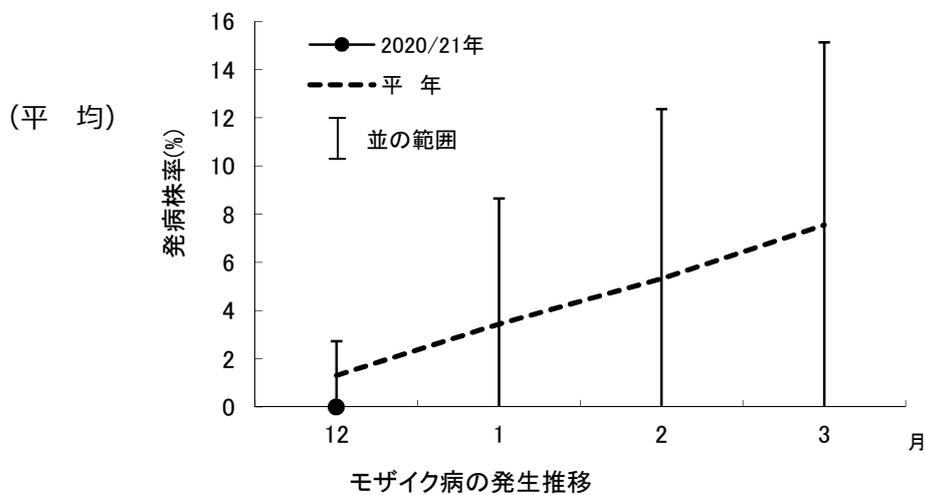
・発生ほ場率：40.0% (平年値：0.0%)

防除のポイント

- ・多発すると防除が困難になるので、葉裏を観察し、早期発見・早期防除に努める。
- ・天敵に影響の少ない、選択性殺虫剤を選定する。

作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	モザイク病		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	12 月からの増減傾向	↗	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果



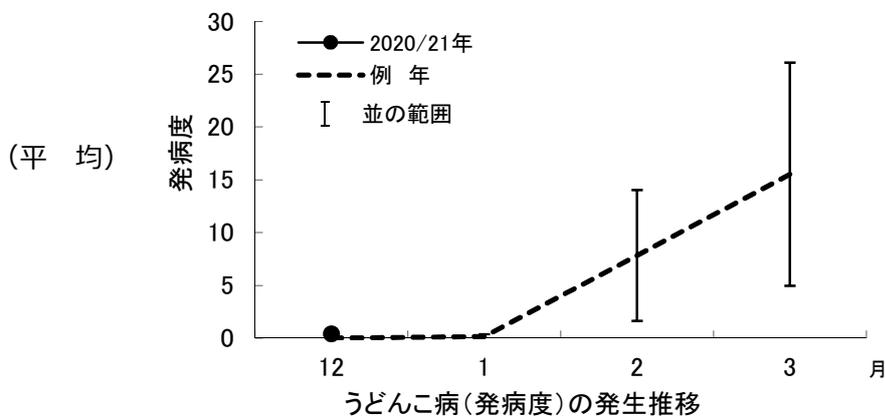
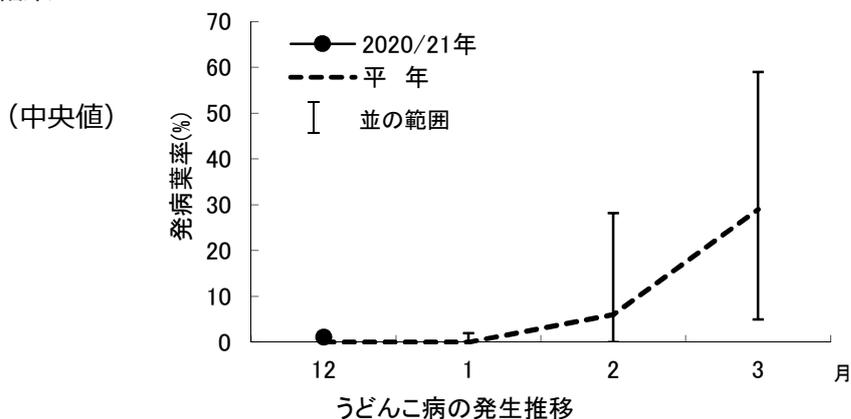
・発生ほ場率 : 0.0% (平年値 : 36.6%)

防除のポイント

- ・ほ場周囲に防風対策を兼ねたソルゴーや防虫ネット等を設置し、媒介虫であるアブラムシ類の飛来侵入を防ぐ。
- ・媒介虫の密度が低くても感染力は高いので、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・発病株は感染源となるので見つけ次第抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ・本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。

作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



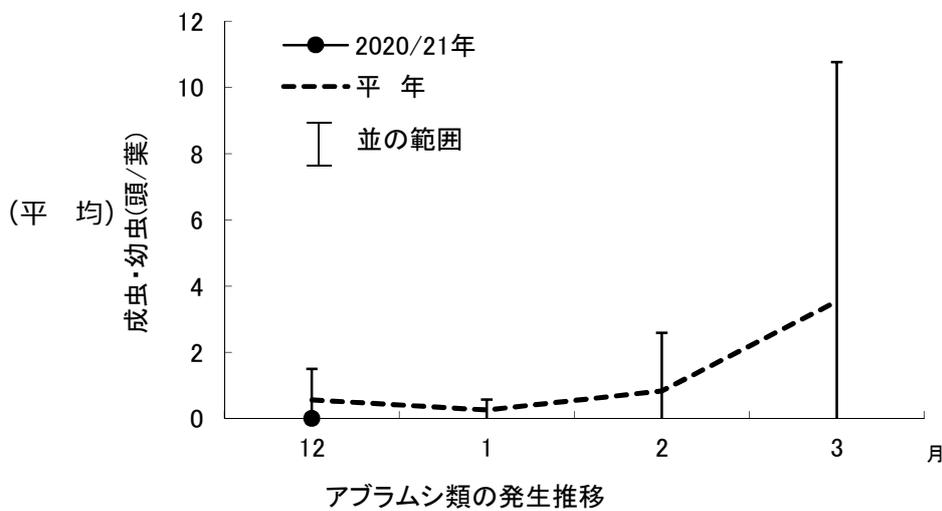
・発生ほ場率：66.7% (平年値：5.6%)

防除のポイント

- ・着果期以降は草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので防除を徹底する。
- ・発生源となる老葉や不要な下葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・窒素質肥料の多施用を避け、予防散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	12 月からの増減傾向	↘	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果



・発生ほ場率 : 0.0% (平年値 : 48.0%)

防除のポイント

- ・ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネットやソルゴー等を設置し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除去する。
- ・本種はウイルス病を媒介する。

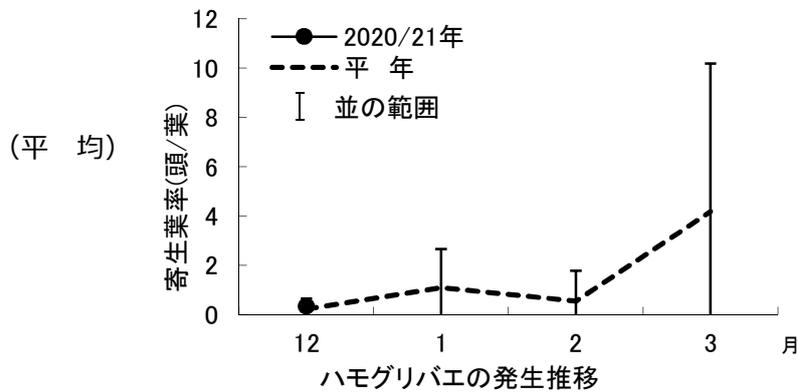


無翅虫

作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	ハモグリバエ類		
調査結果	12 月の発生量（平年比）	並	
予報	12 月からの増減傾向	↗	
	1 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	



調査結果



・発生ほ場率：33.3%（平年値：8.7%）

防除のポイント

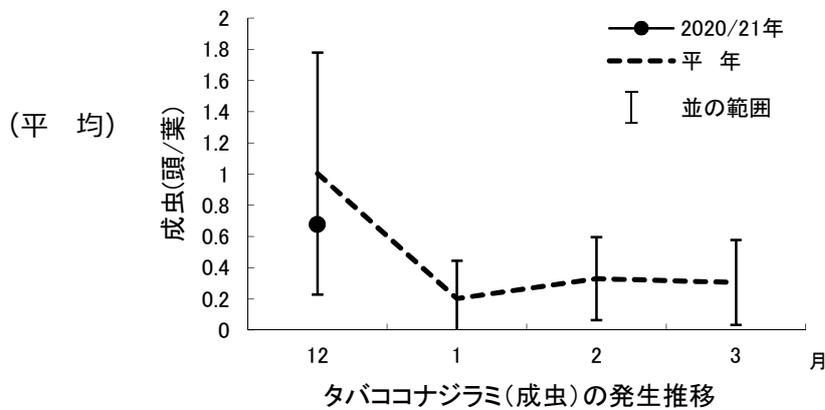
- ・多発すると防除が困難になること、また寄生痕からうどんこ病や細菌性病害が侵入する可能性があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。

幼虫の死骸  
（農薬などで死亡すると黒色に変色）



作物	かぼちゃ	地域	沖縄群島
病害虫名	タバココナジラミ		
調査結果	12 月の発生量（平年比）	並	
予報	12 月からの増減傾向	↓	
	1 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果



・発生ほ場率：100%（平年値：80.9%）

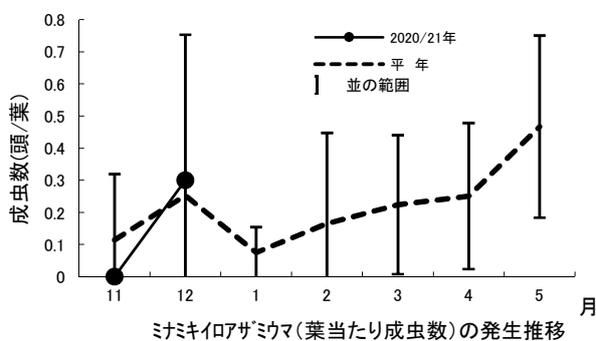
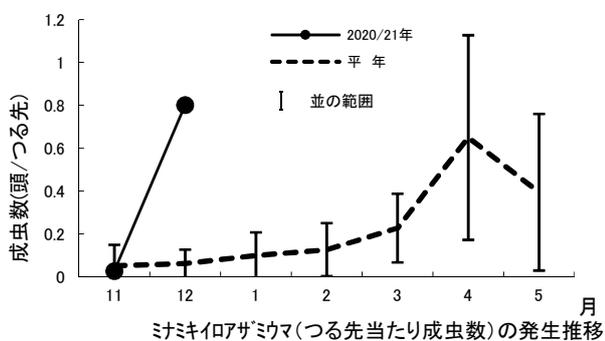
防除のポイント

- ・多発すると白化症を引き起こし、生育不良となる場合がある。また、防除が困難になるので、葉裏を観察し早期防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

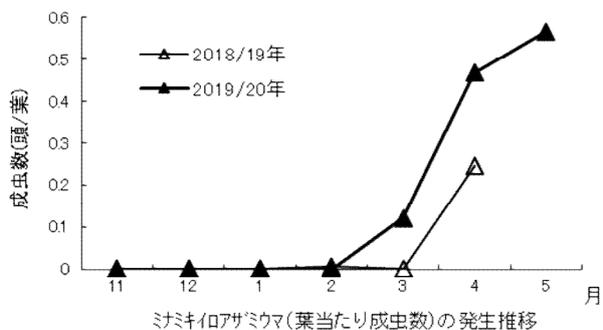
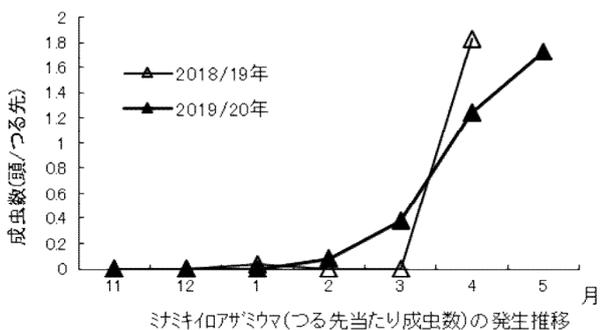
作物	ゴーヤー(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	多	
予報	1 月からの増減傾向	↗	
		1 月の発生量 (平年比)	多
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今年と平年の推移



過去2年の推移



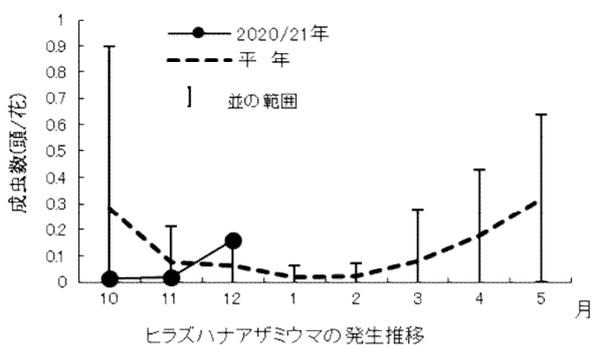
防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

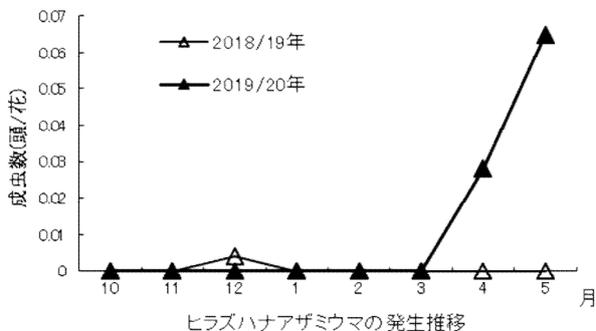


作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① ヒラズハナアザミウマ		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	12 月からの増減傾向	↓	
	1 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果



過去 2 年間の推移

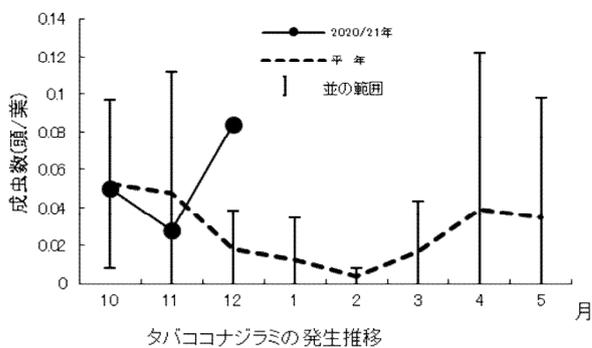


防除のポイント

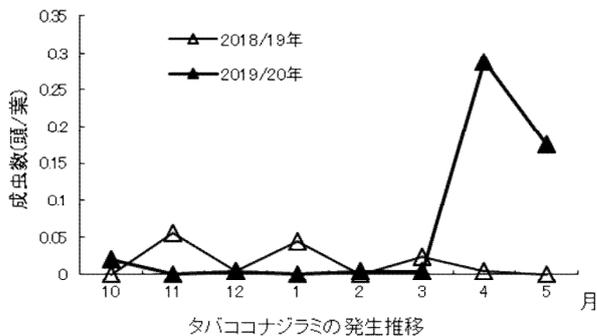
- ・本種は主に花に寄生し、多発すると産卵により果実へ夕部や果梗部が黒変する。
- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	② タバココナジラミ		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	多	
予報	12 月からの増減傾向	↓	
	1 月の発生量 (平年比)	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果



過去 2 年間の推移



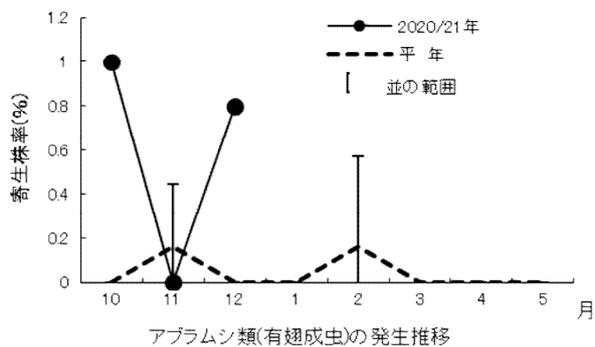
防除のポイント

- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・本種は、多発すると果実の着色異常やすす病を引き起こすため、早期発見防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。

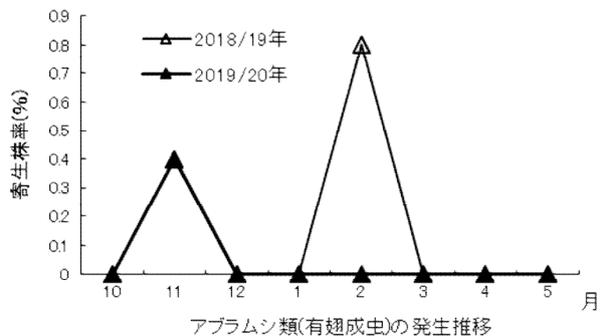


作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	多	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



過去 2 年間の推移



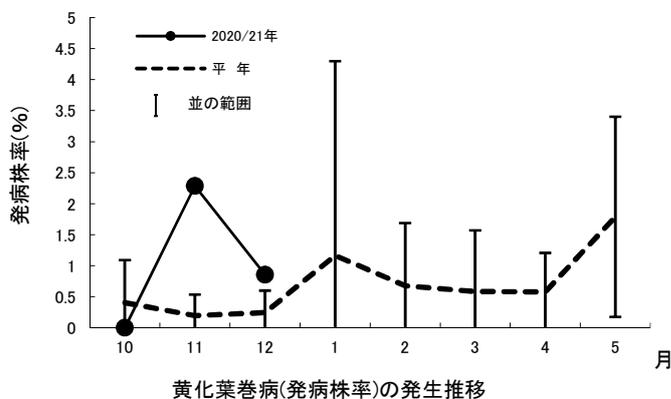
防除のポイント

- ・ 本種はモザイク病を媒介する。
- ・ 施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、有翅虫の侵入を防ぐ。
- ・ 施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 発生初期は局所的に分布するので、被害葉を除去し、スポット散布を行う。

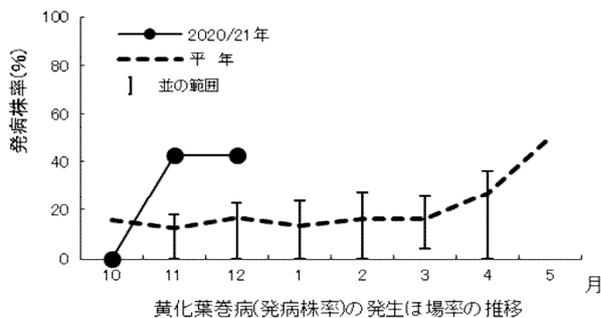
作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	① 黄化葉巻病		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	多	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

(平均)



(発生ほ場率)



防除のポイント

- ・媒介虫であるタバココナジラミの早期発見・防除に努め、伝染源となる感染株は抜き取る。
- ・雑草のムラサキカタバミは塊根に本病の病原ウイルスが感染し次期作の伝染源となるため、根から抜き取る。
- ・感染株及び摘葉残さ、ムラサキカタバミは、施設外に持ち出し必ずポリ袋に入れて密閉処分する。

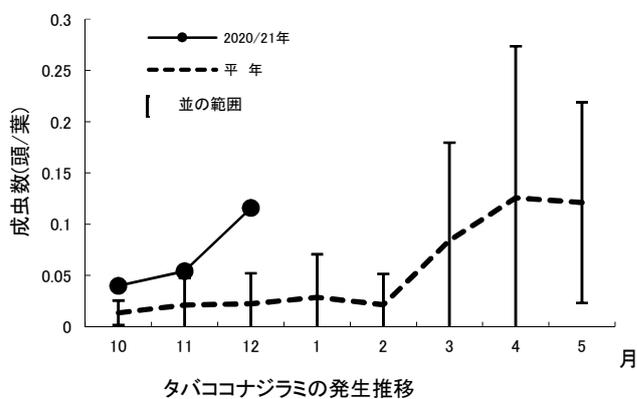


伝染源となるムラサキカタバミ (ヤハタ)

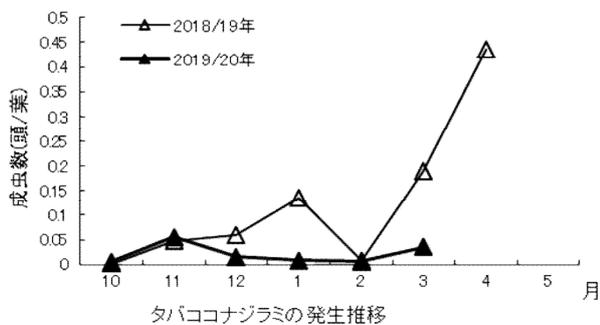
作物	トマト(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	② コナジラミ類		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

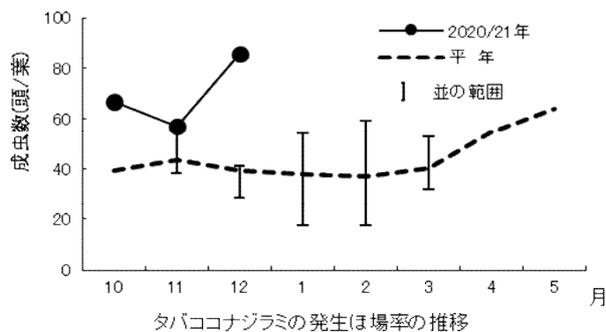
(平均)



(過去2年間の推移)



(発生ほ場率)



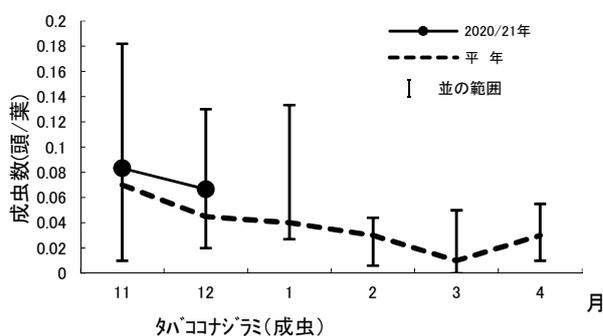
防除のポイント

- ・本種はトマト黄化葉巻病を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。

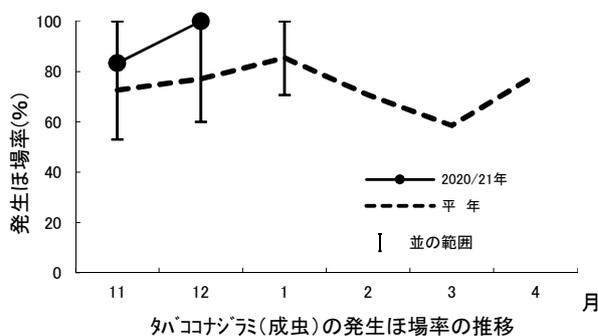
作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	タバココナジラミ		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

(中央値)



(発生ほ場率)



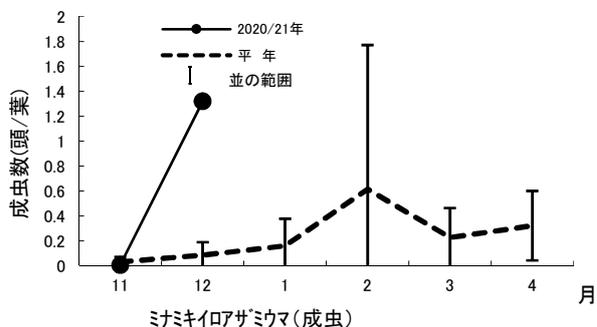
防除のポイント

- ・ ほ場周辺の雑草は発生源になるので除去する。
- ・ 本種はさやの白化を引き起こすので、出入口の防虫ネットを二重にするなどして、施設内への侵入を防止する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。  
また、薬剤抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤や微生物農薬を使用する。

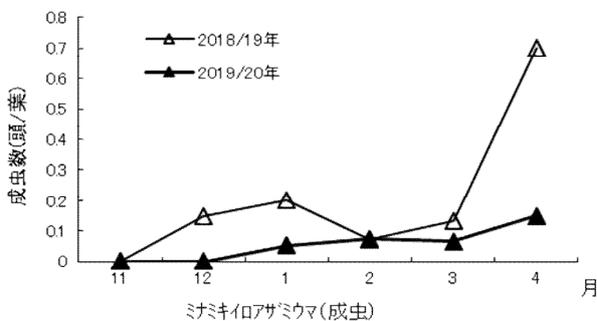
作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	① ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	多	
予報	12 月からの増減傾向	↗	
	1 月の発生量 (平年比)	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

(平均)



(過去 2 年の発生推移)



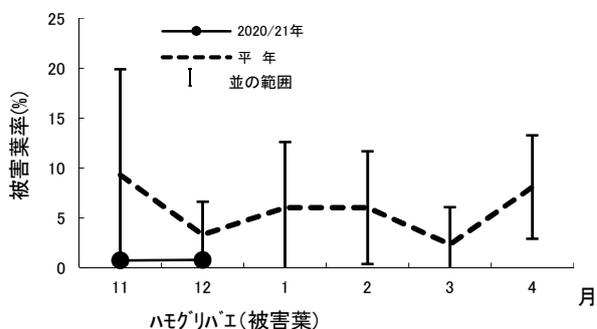
防除のポイント

- ・ ほ場の出入口には二重カーテンなどを設置し、本種の侵入を防ぐ。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源となるので、除草を行う。
- ・ 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

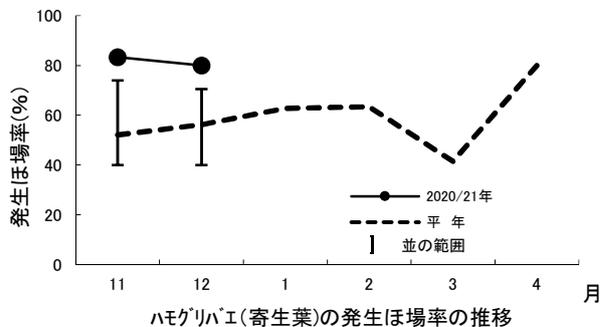
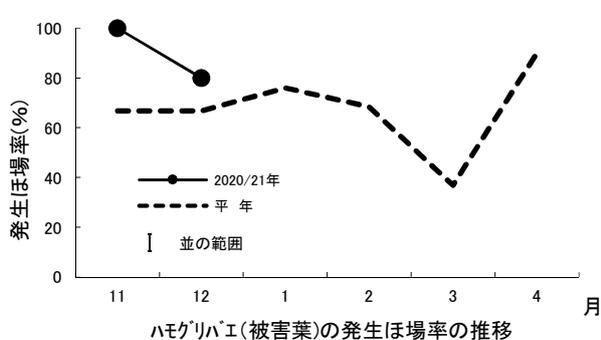
作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	ハモグリバエ類		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	並	
予報	12 月からの増減傾向	→	
		1 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

(平均)



(発生ほ場率)



防除のポイント

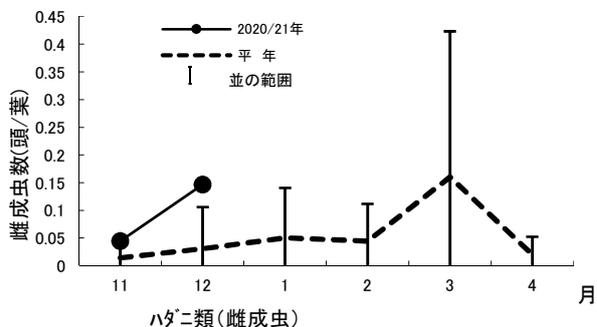
- ・摘葉等による残さは成虫の発生源となるので、ポリ袋に入れるなどして、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・本種は薬剤抵抗性が発達し、また野外に多数の在来天敵が存在することから、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。



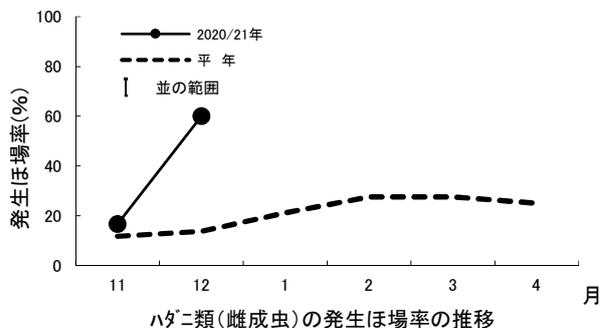
作物	さやいんげん(平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	② ハダニ類		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	12 月からの増減傾向	↗	
	1 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

(平均)



(発生ほ場率)

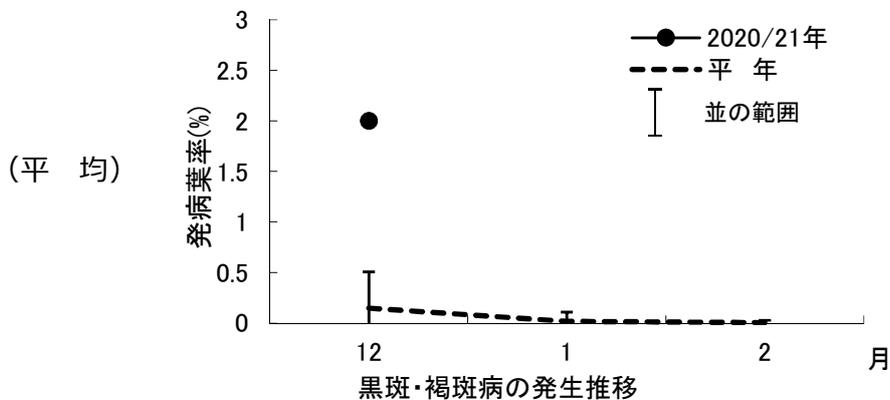
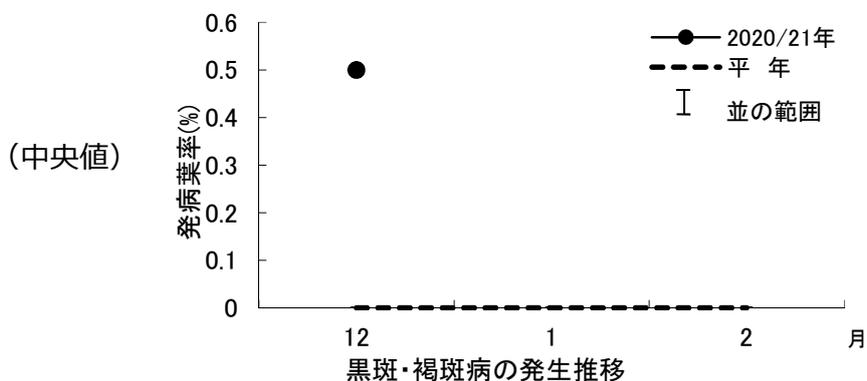


防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。

作物	小ギク（年末出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	① 黒斑・褐斑病		
調査結果	12 月の発生量（平年比）	多	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量（平年比）	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

調査結果



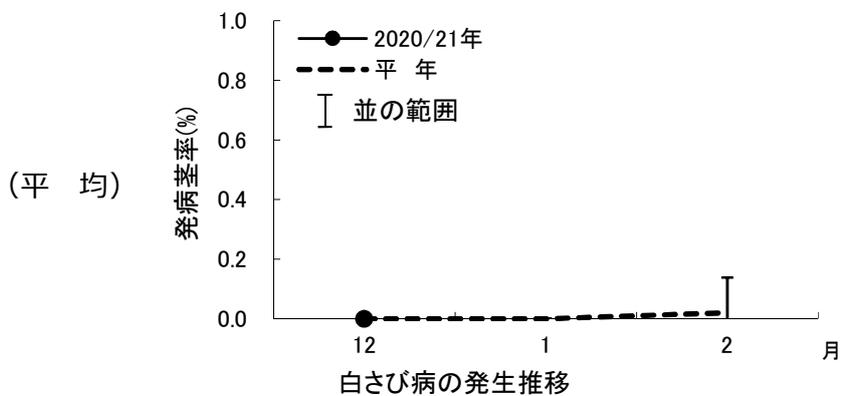
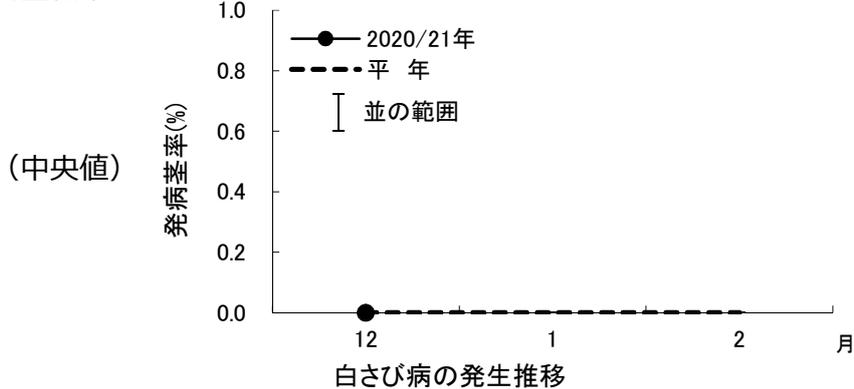
・発生ほ場率：66.7%（平年値：7.4%）

防除のポイント

- ・発病葉は速やかに除去する。
- ・肥料切れや窒素質肥料の過用は発生が多いため、施肥管理を適正に行う。
- ・ほ場の排水・通風を良くする。
- ・水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草を行う。

作物	小ギク（年末出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	白さび病			
調査結果	12 月の発生量（平年比）	(発生なし)並		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果



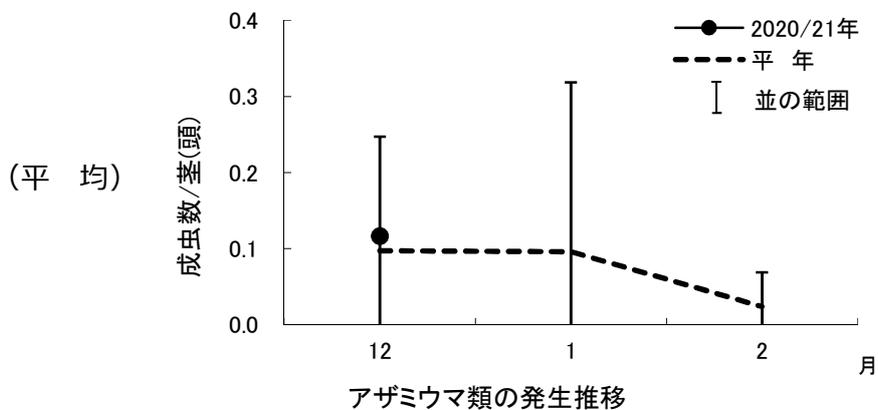
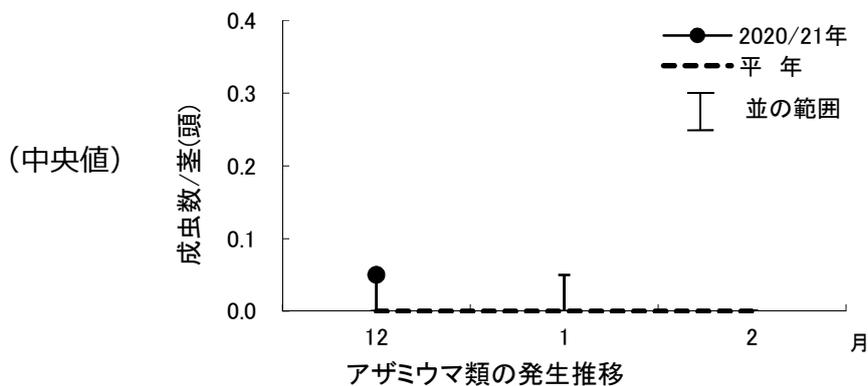
・発生ほ場率：0.0%（平年値：0.0%）

防除のポイント

- ・多湿条件下で発生するので、不要な下葉、脇芽は除去し、通風をよくする。
- ・発病葉は除去し、ビニール袋に入れるなどしてほ場外に持ち出し、焼却などの処分を行う。
- ・発生時期には予防散布を行うとともに、葉をよく観察し初期発生を見逃さない。
- ・防除効果を高めるため、薬剤耐性菌が発現しないようローテーション散布を行う。
- ・栽培終了後は近隣ほ場や次作の発生源にならないよう、不要な株は速やかに処分する。

作物	小ギク (年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	② アザミウマ類		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



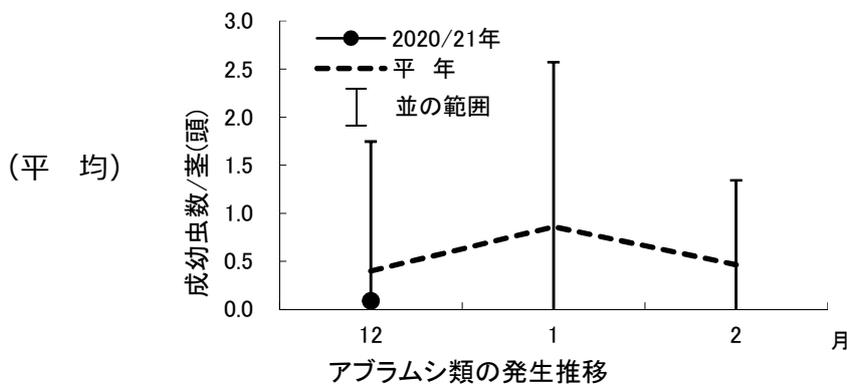
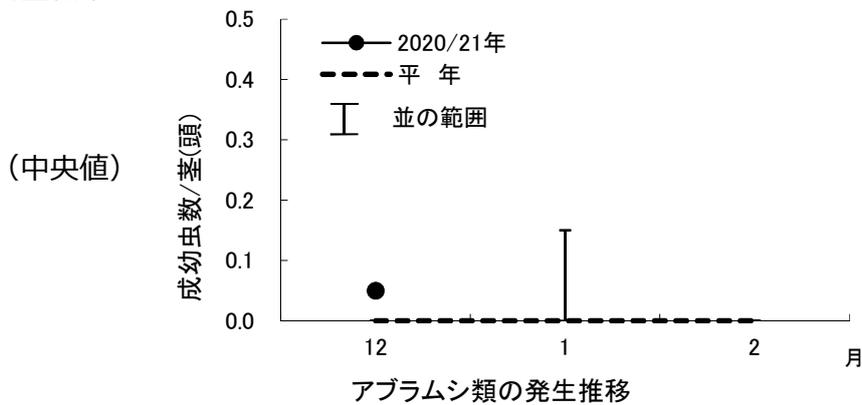
- ・発生ほ場率：55.6% (平年値：36.1%)
- ・病害虫防除員報告：多発生 (久米島)

防除のポイント

- ・成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・同一ほ場内にあるキクは、異なる品種、異なる生長段階であっても、同時に防除を行う。
- ・地際部から新しく出てきた脇芽は、アザミウマが増殖しやすいので、早めに除去する。

作物	小ギク（年末出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
調査結果	12 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	12 月からの増減傾向	↗	
		1 月の発生量（平年比）	やや多
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果



・発生ほ場率：55.6%（平年値：27.9.9%）

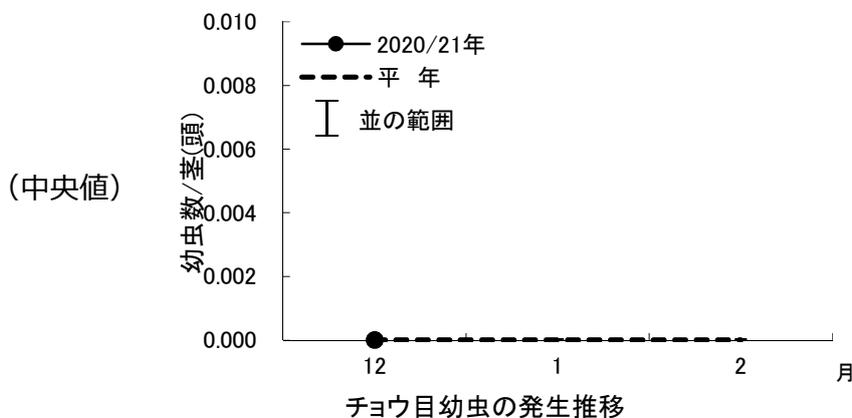
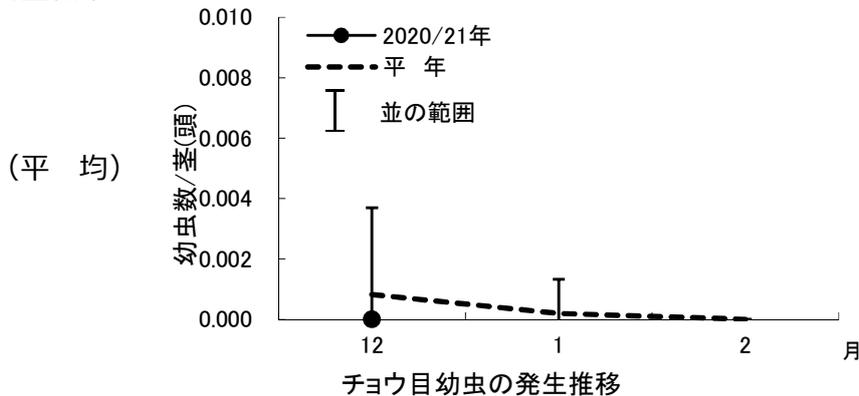
防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。



作物	小ギク（年末出荷用）		地域	沖縄群島
病害虫名	チョウ目幼虫			
調査結果	12 月の発生量（平年比）	(発生なし)並		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果



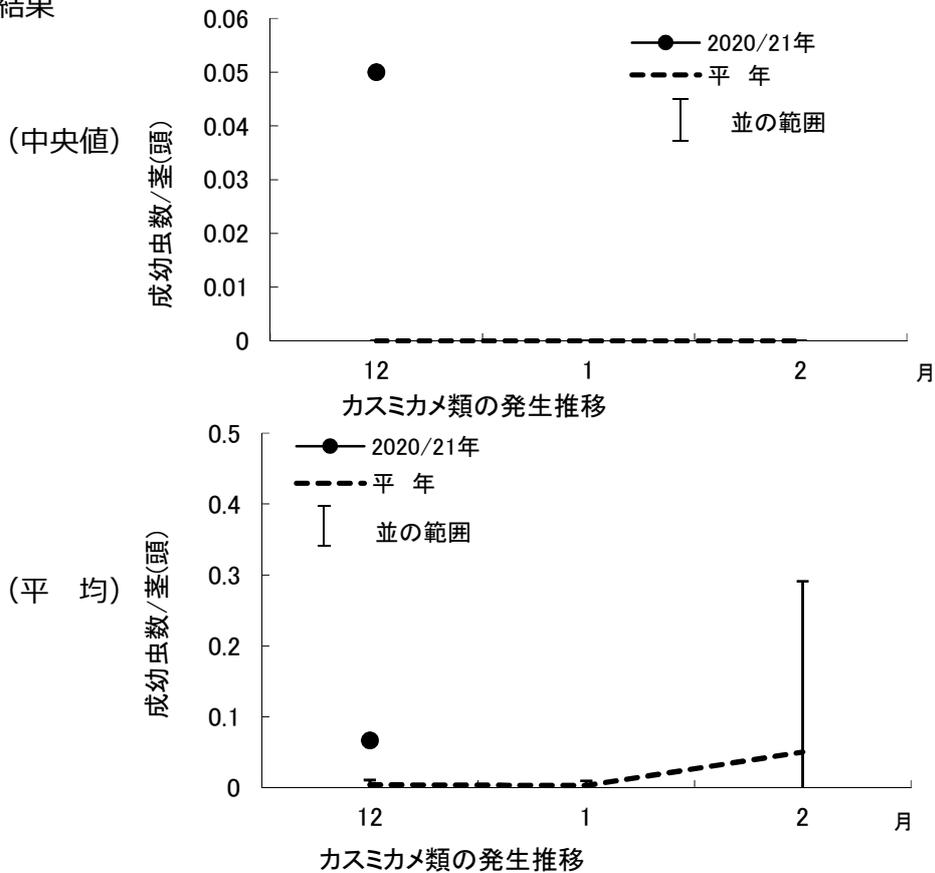
・発生ほ場率：0.0%（平年値：2.5%）

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

作物	小ギク (年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ カスミカメ類		
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	多	
予報	12 月からの増減傾向	→	
	1 月の発生量 (平年比)	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果



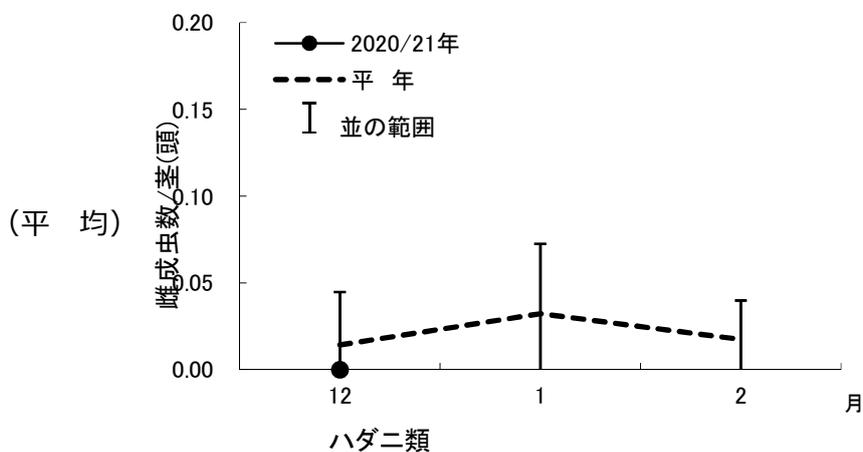
- ・発生ほ場率：77.8% (平年値：8.2%)
- ・発生種：ウスモンミドリカスミカメ

防除のポイント

- ・電照下では吸汁被害が目立つため、よく観察して防除を行う。
- ・周囲のほ場に収穫残りの花があると発生源になる場合があるので除去する。

作物	小ギク (年末出荷用)		地域	沖縄群島
病害虫名	ハダニ類			
調査結果	12 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並		
予報	12 月からの増減傾向	→		
	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果



・発生ほ場率 : 0.0% (平年値 : 8.9%)

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。